

SMP046-P09

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 14:00-16:30

大分県豊後大野市より得られた褐色普通角閃石を含む塩基性岩について Finding of brown hornblende bearing basic rock from Bungo-Ohno, Oita prefecture

棟上 俊二^{1*}, 土肥 慎太郎¹
Shunji Tojo^{1*}, DOHI, Shintaro¹

¹ 福岡教育大学

¹Fukuoka University of Education

大分県豊後大野市朝地町から大分市南西部にかけて分布する朝地変成岩については、古くから多数の研究報告がある(例えば、大島 ほか 1971; 藤井 ほか, 2008)。この朝地変成岩の分布域を野外調査した結果、朝地町田夫時地区より、大きさ約 0.8mm の褐色普通角閃石を含んだ塩基性変成岩が得られた。これは公表されている地質図の中では塩基性岩の分布域に整合しているが、大島 ほか (1971) による塩基性岩の変成分帯では B 帯に相当する地域となっている。褐色普通角閃石は上記分帯では C 帯を特徴付ける鉱物であり、深成岩中の捕獲岩またはルーフペンダントとして産すると記載されている。本研究での塩基性岩を見いだしたルート上では、数条の小規模岩脈並びに新生代の火山岩・溶結凝灰岩類を除いて、変成作用の熱源とおぼしき深成岩類を見いだすことはできなかった。今回見いだされた試料がこの C 帯に相当するものであれば、例えば地下浅所に潜在する深成岩が熱源となり、局所的な変成作用を強めた結果生じたものと考えられるのではないだろうか。また、このことから熱変成作用の及んだ範囲は、従来考えられてきたものよりも若干拡張できる可能性がある。

キーワード: 朝地変成岩, 褐色普通角閃石, 接触変成作用

Keywords: Asaji metamorphic rock, brown hornblende, contact metamorphism